



【小さな献身と感謝を通して働かれる神】

説教者：鄭南哲牧師

聖書本文：ヨハネの福音書6章1-13節 / 暗唱聖句：ヨハネの福音書6章35節 (Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチ信仰の家族のみなさん！一週間もみんなお元気でしたか。新しく始まったこの6月中にもみなさん一人一人の上に、ご家庭の上にさらなる神の祝福と聖霊の満たしが豊かにありますように主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます！また、今日は子ども祝福礼拝としてささげていますが、歴代誌第一4章10節のヤベツの祈りをもって祝福を祈ります。「主が我らの愛する子どもたちを大いに祝福し、愛する子どもたちの地境を広げてくださいますように。御手が愛する子どもたちとともにあってわざわざいから遠ざけ、痛みを覚えることのないようにしてください。」アーメン！

今日の聖書の本文であるヨハネの福音書6章を見ると、思わぬ問題に直面している弟子たちを見ることができます。つまり、イエス様につき従って来て御言葉を聞いている多くの人々を食べさせなければならない問題に直面しています。

イエス様がガリラヤの湖、すなわち、ティベリアの湖の向こう岸に行かれたとき、多くの人々が追いかけてきました。マタイの福音書14章とマルコの福音書6章の内容を今日の本文であるヨハネの福音書と関連付けて調べてみると、イエス様が多くの人々に教えていたときであることがわかります。「**イエスは舟から上がって、大勢の群衆をご覧になった。彼らが羊飼いのいない羊の群れのようにであったので、イエスは彼らを深くあわれみ、多くのことを教え始められた。(マルコの福音書6:34)**」(* 男性だけ5千人、女性、子ども含めると約2万人程度)5節に、イエス様が弟子たちの中まず、ピリポに問います。どこに行ってパンを買って人々に食べさせるのかと。すると、ピリポはどこでという質問には答えなくて、少なくとも最小限200デナリ(1デナリ-当時一日の労働者の賃金=200日間分)をもっていても人々を食べさせることはできないと答えます(ヨハネ6:5-7)。

弟子ピリポは、とつても計算の速い数学論者だったようです。イエス様の弟子であったピリポは、いつも問題をまず自分の頭で、自分の計算で信じ、解決しようとしていた人でした。もちろん問題を正確に診断し、現実的な解決策を模索(もさく)するのを無視してはいけません。しかし、人生のいろんな問題が数学的計算だけで解(と)かれ、その通りなる訳にはいかないことを我々はよく知っています。

弟子たちは多くの群衆を食べさせる食べ物を自分たちにはないことを確信しています。今の問題を解決するほどのお金もなく、そんな能力もないと確信しています。そういうわけで、弟子たちはイエス様に言わせて、群衆を早く解散させて自分たちでなんとか食べ物を解決するようにとお願いをしたのです。その時、イエス様の反応は違います。弟子たちに向って言われます。「**しかし、イエスは言われた。「彼らが行く必要はありません。あなたがたがあの人たちに食べる物をあげなさい。」(マタイの福音書14:16)**ここで弟子たちの観点とイエス様の観点の違いがあらわされます。弟子たちは自分たちの力と計算ではあの大勢の群衆を食べさせるのは不可能だと思い込んでいました。反面、イエス様は弟子たちこそが群衆を食べさせることができると信じておられます。彼らが持っているもので解決できると信じておられたのです。弟子たちはイエス様の話を聞いてとんでもないことだという反応を見せます。なぜなら弟子たちが持っていたものは、ちょうど一人の少年が持って来た大麦のパン五つと小さな魚二匹しかなかったからでした。(ヨハネ6:9)

しかし、弟子たちはイエスに言った。**マタイの福音書14章17-18節**です。「弟子たちは言った。「**ここには五つのパンと二匹の魚しかありません。」**18するとイエスは言われた。「**それを、ここに持って来なさい。」**と言われた。」

ここでまた弟子たちの観点とイエス様の観点の違いが表されます。弟子たちは**大麦のパン五つと小さな魚二匹**は決して大した物ではないと思っています。当然、大麦のパンは当時一番安い物だったし、と乾いたイワシのような小さな魚二匹程度は、大人一人でもなく、子ども一人が食べられるぐらいのお弁当にすぎなかったからです。大目に見ても、大人一人の弁当の量、2万分の1ぐらいでなにが出来るのか思うのは普通の常識をもっていた人の反応ではないでしょうか。

しかし、イエス様はそんな2万分の1しかないもので、大した物でないように見えている物でさえも、ご自身の神の御手の中にあれば、いくらでもそれを通して2万人人々たちを食べさせるほども出来る潜在力(せんざいりょく)のある物としてみておられたのではないのでしょうか。

今日我々も礼拝をとおして新しくされるべきことがあればそれは**我々の観点**だと思います。神様は小さい物を小さいものだと思われません。神様は小さい物をとおして、多くの人々を食べさせたがっておられます。2万分の1程度しかない五つのパンと二

匹の魚でも、主の御手の中では決して小さいものではありません。結局、イエス様はお言葉のとおり、五つのパンと二匹の魚をとおして男だけで5千人、女と子どもを合わせると2万人以上の大群れを食べさせました。そして十二のかごまで残しました。ただ、群衆の手、弟子たちの手の中にいた時は、大麦のパン五つと小さな魚二匹にすぎないものであっても、キリストの御手に差し出し、ゆだね、ささげれば、信じられないほど大きなものとして用いられることを信じましょう！ですから、今みなさんの手にあるものを決して、小さい物で、何も役に立たないし、そんなに無用であると小さく思わないでください。
神様はこの箇所をとおして真の小さいものの力、小さいものの価値を我々に教えて下さっています。

それでは、詳しく今日の本文あの有名なヨハネの福音書6章の御言葉を通して教えられる神の大切なメッセージは何でしょうか。

1. 神様は小さい子どもの献身を通して神の大いなる御業をなされる

イエス様は弟子たちに“あなたがたが食べ物をあげなさい。”と言われました。イエス様はこの出来事を通して弟子たちに大きい問題を解決する原理と方法を教えようとしていました。我々はよく問題が生じるとその問題の解決を遠くから探す傾向があります。しかし、イエスキリストは問題の解決はとつても近くにあるのよと、あなたの中にあるのよと、教えてくださいます。

まず、**8-9節**に、弟子の一人、シモン・ペテロの兄弟アンデレがイエス様に紹介したのは“一人の少年”が持っているお弁当でした。その少年が持って来た大麦五つのパンと魚二匹を持っていると言います。2万人ほどの群衆の中でも、みんなお腹が空いて自分や自分の家族の食べることに夢中だったのに、イエス様の為に、一人の少年のみがイエス様の為に自分のお弁当を差し出そうといたわけでした！しかし、イエス様の弟子たちの中あまりだれも注目していません。関心を持っていません。というのはあまり大事だと思っていなかったという意味でしょう。ところが、イエス様は決してこの少年の献身をとつても大切に思われました。考えて見て下さい。もし、この小さな少年がいなかったなら、大群衆を食べさせられる奇跡は始まらなかったかも知れません。

愛するクリスチャンプレイズチャーチ信仰の家族のみなさん！神様の御前ではだれも小さくありません。我々は時々小さな子どもをやたらに扱う傾向があります。子どもたちを邪魔者扱いしたり、さげすむ傾向があります。しかし、イエス様は違いました！どんな大人よりも子どもたちを大切にされました。子どもたちに純粋で計算しない、すぐだれかを助けようと、配慮する心を大切に思われました。群衆の中、2万人以上の多くの大人がいましたが、だったその小さい少年一人だけがイエス様にまで自分のお弁当を持って来たのです！それは自分よりひもじくなっているじゃないかイエス様に、弟子たちの人を配慮していた子どもの純粋な愛の分ち合いと献身だったのではないのでしょうか。

ある日イエス様は弟子たちに教える時、子供を立たせて教えました。どっちがえらいのかもめている弟子たちのために子どもを立たせて謙遜を教えながらこう語って下さいます。「こう言われた。「まことに、あなたがたに言います。向きを変えて子どもたちのようにならなければ、決して天の御国に入れません。」」(マタイの福音書18章3節)

また、マルコの福音書10章 13～16節で「13 さて、イエスに触れていただくとして、人々が子どもたちを連れて来た。ところが弟子たちは彼らを叱った。14 イエスはそれを見て、憤って弟子たちに言われた。「子どもたちを、わたしのところに来させなさい。邪魔してはいけません。神の国は、このような者たちのものです。15 まことに、あなたがたに言います。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに入ることはできません。16 そしてイエスは子どもたちを抱き、彼らの上に手を置いて祝福された。」

イエス様は子どもたちを邪魔者扱いしている弟子たちを叱りながら御国は子どものような人たちのものだと教えました。“そのとき、イエスに手を置いて祈っていただくために、子どもたちが連れて来られた。ところが、弟子たちは彼らをしかつた。しかし、イエスは言われた。神様は子供たちが持っているあれこれ計算しないで信じる計純粋な、素直な信仰、小さい愛でも献身でも惜しみなく喜んで分ち合おうとする姿を、喜んでおられ、その小さな子どもの献身や愛であっても、用いて偉大な御業をなされるお方であることを忘れないでください。神様は年齢問わず、小さな事でも愛を持った献身と仕えをされる人を通して喜んで働かれることを忘れないで下さい！

例え)アメリカのフィラデルフィアに temple 教会が建てられた時のことです。教会堂が狭くて一人の少女が礼拝をささげず戻って来てしまいました。大人たちでさえ礼拝をささげるのに狭いのに、子どもたちは入る席がないという理由でした。少女は家に戻って来てしばらく教会を行ってないうちに、病気になるって召されてしまいます。少女が亡くなった後、まくらの下で57セントと手紙一通が発見されました。その手紙は temple 教会のロシェル・コンウエル(Russell H. Conwell)主任牧師先生宛の手紙でした。“先生、

私は早く教会に行きたいですが、礼拝堂が狭いため、いつも空き席を待っていた子どもです。食べたいものを買わずにあつめたお金ですので、これで礼拝堂を一日も早く建ててください。それでほかの子どもたちもみんな共に礼拝をささげることができるようにさせてください。”この手紙は少女のお葬式の時信徒たちの前で読まれ、聞いている人たちみんなが涙なしにはいられませんでした。これをきっかけにテンプル教会は子ども達の礼拝と信仰教育の為大きい教育館を建てました。教会が成長しながら子の教会を通して、良きサマリア病院も建てられ、その後名門のテンプル大学も設立されました。その後この話はアメリカで“57 セントの奇跡”として人々に知らされています。

今日の本文で2万人ほどの人とたちを食べさせても12かごが残るほどのイエス・キリストの奇蹟が起こされたその始まりは、大勢の大人でもなく、イエスの弟子たちでもなく、ある名前も知らない一人の小さい少年の小さな愛の分かち合いと献身が大いに用いられ、多くの人々が満腹に食べられる大きな神の愛の奇蹟の御業が起こされたのを我々の教会の家族も覚えて頂きたいと願います。今日の奇蹟は小さい子どもである少年をとおして始まりました。神様は子供を通してでも我々を助けてくださいます。

神様は我々の近くにいる人をとおして我々を助けてくださいます。子どもたちの信仰の姿を大人である我らも学ぶ必要がある時が多くあります。ですから、これから子どもたちに是非大切にしましょう。ですから、我々は心を開き、霊的な目を開いて神様の観点を持たなければなりません。神様の目で人をみなければなりません。我々に知っている人がいないと言ってはいけなと思います。普通一人のまわりには最低 120 人以上のかかわりをもっていると言われていています。家族、親戚、学校のクラスや町のお友達や知り合い、教会員、直接、間接的に知っている人々を数えてみると実は 120 人も越えるかも知れません。そんなわけで一人に親切に接することは 120 人に親切に接するのと同じです。子どもだとしてもその背後には多くの家族がいることを覚えなければなりません。

2. 神様は我々にある小さなことでも差し出す時神の大いなる御業をなされる

愛する信仰の家族のみならず、神様は我々の近くにいる人を通して助けてくださるだけでなく、我々が持っている物をとおして助けてくださいます。

何度もメッセージの時間に繰り返し申し上げていますが、神の前で自分には何もないと、だから何も出来ないと言わないで下さい。最近自分も、生活もきつくて、厳しいので、神様のために、だれかの為に自分が差し上げる、分かち合えることはないと思っただけではないでしょうか。人の目で大きな、大したことなくても大丈夫でしょう！

今日の本文の一人の少年はお腹が空いて来た時間なのに、自分の一食の弁当！それをイエス様に差し上げました！

弟子たちもイエス様に彼らが持っているものがとっても小さなもので、何もできないかと言いました！！

マタイの福音書 14 章 17 節には、「弟子たちは言った。「ここにはパンの五つと二匹の魚しかありません。」

しかし、イエス様にもっとも大切だったのは“ここに(我々にあるもの)”です。つまり、イエスキリストは、われわれに無いものでは決してありません！イエス様は弟子たちに“それを(今あなたにあるものを)わたしに持ってきなさい(マタイ 14:18)”と言われます。

今日の御言葉を黙想する時一番心に残される御言葉がありますが、それを“それ(あなたが持っているもの)をここに(イエスキリストの御前に)持ってきなさい。” 神様は我々にあるものを大切に思われます。しかし、それを自分だけで持っていてはいけません。それを神様に持って来る、持って行くのを、差し出す時を待っておられます。

もし、少年が自分の弁当を自分で食べてしまったなら、自分のお腹で満足されたかも知れませんが、それ以上の意味も、価値もなかったはずで。実際に2万人ほどの人たちの中で少年のように自分の弁当を持参した人たちも多くいたはずなのに、どうしてこの少年の弁当だけが大きいに用いられ祝福されたのでしょうか。自分よりももしかしてお腹空いているかも知れないイエス様のため、あるいは、こんな少ない自分の弁当だけど、今お腹空いている多くの人たちのためにイエス様が何とかしてくれないかなという小さな愛と信仰があったからこそ、イエス様の御手の中で豊かにされ、用いられたのではないのでしょうか。

神はみなさんに多くのことや大した事、みなさんが出来ないほどの無理な事を願う方では決してありません！自分よりもっと神のため、多くの人々のため、小さな愛、小さな仕え、小さな献身を持って今みなさんにあるもので、主に差し出す時に、主が必ずさらに大事なものとして、価値あるものとして、尊いものとして、用いようとしておられるお方であることを一生忘れないでください！

3.神様は感謝を通して神の大いなる御業をなされる

最後に一人の少年が五つのパンと二匹の魚をイエス様の御前に差し出した時、イエス様はどうされたのかをみてみましょう。

イエス様がされたのはそれを持って感謝の祈りをささげられました。その後、弟子たちを通して群衆にパンと魚が分け与え始めたら、すばらしい奇跡が起こりました。男だけで5千人が食べました。女と子どもを含めると2万人以上が満腹した後でも残ったのが十二のかごでした。ヨハネの福音書6章11-13節ではこう書かれています。

「そして、イエスはパンを取り、感謝の祈りをささげてから、座っている人たちに分け与えられた。魚も同じようにして、彼らに望むだけ与えられた」12彼らが十分食べたとき、イエスは弟子たちに言われた。「一つも無駄にならないように、余ったパン切れを集めなさい。13そこで彼らは集めると、大麦のパン五つを食べて余ったパン切れで、十二のかごがいっぱいになった。」

イエス・キリストは2万人の前で、何もないように見えた小さな大麦のパン五つと小さい魚二匹を持って、感謝を捧げる事を忘れなかった姿をみなさん！決して忘れてはいけません！

小さな感謝でも感謝は奇跡を起こすことのできるほどの力があります。感謝は神の豊かさを体験できる源です。

また我々が覚えるべきことは感謝の対象です。感謝をささげるべき対象は当然一番は全ての創造主なる父なる神様です。

神様に感謝をささげるとき、神様はくすしい奇跡で報いてくださいます。感謝自体が大きい祝福であり、幸福です。

神はわずかな事にも感謝を忘れない者にさらなる感謝を満たし、与えて下さいます！

大麦のパン五つと小さい魚二匹しな持ってないとつぶやくこともできるし、大したものではないように思うかもしれませんが。そんなものをわたしに持って来たのかと言われることも考えられます。しかし、イエス様は決してそのように言われる方ではありません。

むしろわずかなそれを持って感謝をささげておられます。我々は感謝する時祝福を受けます。感謝する時幸せになります。幸せになりたいなら感謝してください。幸せとは感謝から始まり、感謝は幸せを作り上げます。幸せだから感謝するのではなく、感謝するから幸せになるのを決して忘れないで下さい！！

実際、五つのパンと魚二匹は貧しいお家の子どものお弁当に過ぎないかも知れません。

もし、大麦のパンをお米のパンと比較し、魚を牛肉と比較するなら感謝することはできなくなり、かえて自分に今ないもので不幸を感じてしまうと思います。大切なのは、我々に今与えられたのを感謝するのか、もしくはつぶやくのかによって状況は 180 度変わってくるということです。感謝すると、すべてがみなさんと周りが豊かになります。感謝するとすべてが価値あるものになります。

愛するみなさん！感謝は謙遜な心から始まります。イエス様は神様です。神様の御子です。なのに、大麦のパン五つと小さい魚二匹を持って感謝の祈りをささげました。ならば我々も当然いくらか些細なことにも、小さな事にもいつも先に感謝をささげるべきではないでしょうか。そうすると我々も幸せになり、その幸せを伝えながらほかの人を助けることができるようになります。

大麦のパンを上げて感謝の祈りをささげたイエス様は人類にいのちを与えるいのちのパンとして来られました！

ヨハネの福音書6章35節-「イエスは言われた。「わたしがいのちのパンです。わたしの もとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は どんなときにも、決して渴くことはありません。」最後の晩餐でイエス様はパンを取った後、感謝の祈りをささげました。そのパンはイエス様の御体を意味します。杯をあげて感謝の祈りをささげました。その杯はイエス様の血を意味します。聖餐は(ユカリスト)です。これは‘ユカリスティア’から出た言葉で、‘感謝をささげる’という意味です。聖餐に参加するということはつまりすべて感謝をささげることです。十字架のうえで我々のために犠牲を払ってくださったイエス様の恵みに感謝をささげることです。この後、聖餐式にも共に心から感謝を持って参加しましょう。

<結論>今我らに与えられている子どもの存在に感謝しましょう。“私には知り合いがいません。私の周りには私を助けてくれる人がいません。私にはもっているものが何もありません。”と言わないで下さい。神様は奇跡を起こされる時、我々が知っている人、我々の持っている物を通して働かれます。実際に、弟子たちにはイエス様がそばにおられました。しかし、弟子たちはその事実を忘れていました。我々のそばにイエス様がともにおられるという事実を忘れてはいけません。自分が持っている小さいものでも、感謝をもって主の御手に差し出し、ささげられた時に、私もみなさんもほかの人を食べさせ、助け、生かすことにより、神様に栄光をささげるクリスチャンプレイズチャーチ全信仰の主人公たちとなりますようにイエスキリストの御名によって祈ります。アーメン！